SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学/作陽音楽短期大学/岡山県作陽高等学校



平成24年3月に実施された第26回管理栄養士国家試験において、 栄養学科は60名の合格者数と96.8%の合格率を達成しました。







- ■「若人よ菩薩道を歩め」…3頁 学校法人作陽学園
 - 理事長 松田英毅
- ■「第3の波の時代へ 対応した教育改革」……4頁 〈らしき情味大学・作帰音楽短期大学 学長 有本 章
- ■「「入学定員の変更」および「システム改革」等について」……5頁音楽学部長 林原郁雄
- ■「食文化学部の更なる発展に向けて」 〜第26回管理栄養土国家試験を終えて〜・・・・6 頁 食文化学部長 山下静江
- ■「子ども教育学部の新たな 第二ステージの始まり」… 7頁 子ども教育学部長 山野井敦徳
- ■「新たな領域の拡大により、 さらなる地域音楽文化への 貢献を目指す大学院研究科」…8頁 くらしき作陽大学大学院 音楽研究科長 竹内京子
- ■「短期大学60周年を終えて 新たな旅立ち」……8頁 作陽音楽短期大学 音楽学科長 丹代 茂
 - ■「岡山県作陽高等学校」 ------9~10頁
 - ■鶴声会近況報告・翠会だより ・高校同窓会・・・・13頁
 - ■平成23年度決算について -----14頁
 - ■演奏会のご案内……15頁



くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学・大学院の平成24年度入学式が、4月3日に執り行われ、427名の新入生がそれぞれの思いで新たな生活をスタートさせました。

また、4月20日、21日には、新入生学外オリエンテーションが行われ、研修先で学生同士、教員との親睦を深めました。



若人よ菩薩道を歩め



昨年、3月11日の東日本大震災の際に福島原発が破壊し、 放射能による甚大な被害が生じ、未だに地元はもとより多く の人々に大きな不安を与えています。原発は発達した現代社 会を造り上げた科学技術の最たるものでありました。近代に なってから、人類は科学技術は財を産み人間を幸せにするも のとの科学信仰のもとに科学技術を発展させ、今日の科学技 術文明を造ってきました。そうして、この文明社会ではこれ までにこの原発事故をはじめ、地球規模での自然環境破壊、 9.11テロの報復戦争などの愚を繰り返し、多くの人々を苦し みに追いやっています。これらのことの根底には人間の欲望 と傲慢があります。

人類は人間の真の幸せのため、平和な人類社会構築のために学校に学び、学問を究めています。本学園の創立者松田藤子先生は、今の学校教育は事実と知識を教える。宗教は真理と智慧を与える。事実と真理、知識と智慧を教えるのが人格形成に必要なもので、そこに本当の教育がある。事実と知識のみの教育は偏った人間を造り、さらには歪んだ社会が生じる恐れがあると考え、大乗仏教に基づいた心の教育を柱とした作陽学園を創立したのでありました。

原発ではわずかな核燃料から大量の熱を取り出すことは知っていても、同時に生ずる多量の放射能を完全にコントロールする術を人間は未だ手にしていないのですから、他のエネルギー源を考えることが真の人類の発展に繋がることでありましょう。環境破壊も、9.11の報復戦争も同様であります。これらの事は、その時には得に見えても、長時間経てば人類の発展を阻害するものとなっています。高度に発達した現代文明社会は、快適で便利な社会である一方で、不安と苦悩の闇を抱えた社会でもあります。この闇を破り、社会を生き生きと明るくする人が求められています。

創立者は作陽に学ぶものが全て菩薩になって欲しいと願っていたと思います。具体的に菩薩とはどんな人をいうのか。身近な母親に菩薩の姿を拝むことができます。誕生から成人まで我が子の為に自分を投げうち尽くして育てるのが母親です。全身全霊で我が子の為に尽くし、同時に自分の人間性も高める、人として守るべきものは守り、多くの事に耐え、努力をし、ある時は心を穏やかにして静かに思考し、人間として生き抜く智慧をもち、家族の柱として生きる。自分は踏み台となりあらゆるものを生き生きと輝かす。そこにはそうせずにはおれない母親の心が働いています。その心は大いなるもの(如来)から願われている心です。そのように自利利他の精神で、自分の人格を高め他者への貢献が出来る人を高度に発達した現代の科学技術文明社会は求めています。

本学園は、そのような現代社会の要求に応えることのできる数少ない学校だと思います。作陽で学ぶ全ての若人に菩薩の道を歩いて欲しいと念願しています。学生生活では、そのための実践目標として"挨拶、掃除、合掌"を掲げ、毎日実践できるようになってもらいたいとしています。挨拶は目と目を合わせ、心と心を通わせ互いに人間として存在している有り難さを伝えます。掃除はその行為が即自分の心の掃除であり問りを社会を明るくします。合掌は願い事をするのではなく、感謝と懺悔であり、祈りであります。毎日生かされていることへの感謝であり、人として恥ずかしい事をしてしまったとき相手に対し、み仏に対しての懺悔であります。

本学で学ぶ全ての若人は、在学中も卒業後も六度の行といわれる菩薩道(布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧)を常に心がけ実践して欲しいと願っています。このようにして菩薩の道を歩む者が沢山生まれることにより、家庭も社会も国も生き生きとよみがえるに違いありません。

第3の波の時代へ対応した教育改革

^{学 長 **} *** **** **** **有 本 章**

巨視的な視点に立って、中世大学の誕生以来800年の年輪を重ねてきた世界の大学史を紐解きますと、中世大学から近世大学までは第1の波、近代大学以後は第2の波の時代であることが分かります。そのことは教育が大きな比重をもつ時代から教育と研究が大きな比重をもつ時代への転換が生じたことになります。近代大学が登場した19世紀の前半から今日までの200年間は、科学や研究の大学への制度化を契機にしながら研究と教育をいかに連携させ統合させるかが課題となりました。

このような変遷を辿りますと、現代大学は今後21世紀を通じて急激な社会変化に対応していかなる大学像を創造するかが問われる画期的な時期にさしかかることは必至です。端的に言いますと、現在は第3の波の時代に対峙しているといって過言ではありません。

グローバル化、知識社会化、市場化、ユニバーサル化など が加速的に進行している現代社会では、社会制度の一翼を担 う大学が時代的要請に対応して改革を遂行しなければアナク ロニズムに陥り社会的存在理由を喪失するのは当然の帰結で あります。グローバル化が進行し、世界的に国境を越えて経 済、政治、文化、教育が展開される中で、高等教育はボーダ レス性を強め、広く普遍性、共通性、通用性などを求められ、 概して制度や内容の画一化を促進させる動きをもたらすのは 回避できないと予想されます。社会の中に知識の発見、伝達、 応用の機能が比重を増す知識社会では、知識を基盤にアカデ ミック・ワーク (学事) を成り立たせる大学の存在価値は高 揚します。他方、経済や知識社会の動きと連動して知識経済 を強める市場化の動きの中では、大学には効率、能率、アカ ウンタビリティなど総じて合理化を通して「知識共同体」か ら「知識企業体」へと変貌せざるを得ない力学が作用してい ることも否めないでしょう。

これらの動きと呼応しながら今や着実に進行している現象

は、高校生の50%以上が大学へ進学する時代の到来、すなわち高等教育のユニバーサル化段階の出現であります。日本の大学(短大を含む)の進学率は、米国とカナダに次いで、1960年代には世界に先駆けて進学率15%未満のエリート段階から15%以上のマス段階へと躍進しましたが、その後伸び悩む間に後続国に追い抜かれました。しかしながら、最近は進学率57%に達し、早晩60%を超えると予測される段階を迎えました。

かくして、第一の波や第2の波の時代と異なる第3の波の時代の特徴は何かと問いますと、それは何よりも学生の量的拡大に起因する「超」多様化が現実となることでしょう。過去の時代とは様相を一変したこの現実に適切に対応した大学改革を行わない限り大学は生き残ることはできないのではないでしょうか。

第2の波が研究・教育の統合を理念としてきたとすれ ば、第3の波は研究・教育・学修の統合、換言すれば R-T-S (Research-Teaching-Study) 連携を理念として模索せざるを 得ないとみなされます。教育や研究の統合は学生よりも教員 が主たるアクターであったのに対して、研究・教育・学修の 統合は学生の比重が高まりますから、教員は研究を担保して、 学生を単に教育するのではなく、学修者である学生の自主 性・主体性を尊重して学修を支援するための教育に力点を置 くことが重要性を増します。なぜならば、知識社会を組み込 んだ社会の明日は不確実性に充ちており、「将来予測が困難 な時代」であるからです。未来からの留学生である学生が帰 還する未来社会の変化は必ずしも明確に予想できない以上、 教員は全部教えることは不可能であり、むしろ敢えて教えて はならず、それよりもむしろ学修者自身が自主的・主体的に 考え、模索し、創造する力を醸成することが大切であります。 大学を卒業して社会の中で失速するのではなく着実に伸び続 けるような、生きてはたらく力を育成することが肝要であり ますし、そこにはルソーが指摘した「教えなければならない、 されど教えてはならないしという「教育のパラドックス」が 働いています。

本学は現在、大学教育(準学士課程・学士課程・修士課程教育を含む)の構想を明らかにして、学生の学習意欲、学修力、学力、就業力を一貫して高めるために教育の質保証を模索する改革を推進しつつあります。学生諸君が自主性・主体性を発揮できるようにするには、予習復習を確保するシラバスの作成をはじめ単位制(GPA、CAP制などを含む)、授業科目のナンバリング、厳しい成績評価などの改革が欠かせませんが、それは究極的には建学の精神を体現した豊かな人間性の涵養を追求すると同時に、第3の波の時代に対応する豊かな人間教育を構築するための模索であります。

「入学定員の変更」および 「システム改革」等について



音楽学部は、今年度まで音楽学科80名、音楽教育学科50名で合計130名の入学定員でしたが、平成25年4月から音楽教育学科を募集停止とし、音楽学科に現在の二学科の全専修を収めて、入学定員を100名に変更することになりました。従いまして、音楽学部音楽学科はモスクワ音楽院特別演奏コース、芸術演奏コース、教育文化コースの3つのコースになり、来年度の学生募集に取り組むことになります。

また、平成25年度からのカリキュラムにつきましては、多様化する学生のニーズへの対応およびキャリア教育の充実を図るために、コースや専修の垣根を低くして他コース、他専修の科目が選択できるよう柔軟性のあるカリキュラムの準備をすすめているところでございます。この度の改訂では、学生が専門教育を学びながら、自身の就職を実現するために「進学・演奏」「教員採用試験突破」「指導者養成」「企業・公務員就職」の4つのスタディプランから目標に沿ったプランを一つ選び、4年間を通して就職への取り組みができるようにしたことが大きな特徴となっています。

さて、一般的に音楽学生は就業に対する意識が希薄であるといわれておりますが、本学部学生とて決して例外ではありません。昨年度までの本学キャリアサポートセンターや進路支援室の報告の中には、卒業年次になっても再三の呼び出しにも応じない学生が多数いること、履歴書が書けない学生がいること、めざすべき具体的な職種がない学生がいることなど、楽観できない状況をうかがうことができます。卒業時に、目標にしている就職先に就職できるか否かは、1年次から3年次までの3年間という長い時間を費やして、目標達成のためにどのような準備を積み重ねてきたかということにかかってまいります。3年次、4年次になって慌ててみても、この厳しい就職戦線を突破することは容易なことではありません。

そこで、本学部では、教員が専門教育のみならず「就職100%」を実現するために、本年度より新たに「スループットのシステム改革」に取り組むことにいたしました。これを具体的に申しますと、学生を受け持つ教員が責任を持って学習力や学士力の質保証を行う活動であります。1年次の就業に対する「意識づけ」に始まり、年次を追って「進路の決定」「専門教育の強化」や「教養教育の強化」「資格取得対策」、「教員採用試験対策」「大学院進学対策」などの指導・教育を通して確実に就業力を高め、ひとりひとりの学生の就職を確かなものにすることにより、出口の就業力を保証したいと考えています。

おわりに、「入学定員の変更」に伴い昭和50年に開設され、 37年間に渡り募集をして参りました音楽教育学科の幕を引く ことになりましたが、卒業生の皆様には諸般の事情をお酌み 取りいただきまして、ご理解を賜りますようお願いを申し上 げますと共に、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

音楽学部 音楽学科

就職率100%を目指して、チーム教育を 実現する1学科3コース制を導入。



- モスクワ音楽院特別演奏コース ピアノ、ヴァイオリン
- ◎ 演奏芸術コース ピアノ専修(オルガノン専修を含む)、声楽専修、 管楽器・打楽器専修(吹奏楽指導専修を含む)、弦楽器専修(ハーブ専修を含む)、 電子音楽専修、作曲・指揮専修、邦楽(筝曲)専修
- 教育文化コース 音楽教育(ピアノ、声楽、管、打、弦)専修、音楽療法専修、 音楽デザイン専修、アートマネジメント専修

各専修で学ぶ学生一人ひとりを4つのスタディプランで目標へ導きます。

進学・演奏スタディプラン

指導者養成 スタディプラン 教員採用試験 (中学校・高校) 突破 スタディプラン 企業・公務員 就職 スタディプラン

食文化学部の更なる発展に向けて

~第26回管理栄養士国家試験を終えて~



食文化学部長 山下静江

食文化学部は平成23年度より2学科制に改組して2年目に 入りました。新学部発足に当たって、栄養学科(管理栄養士 養成課程) は発足当時のままとし、現代食文化学科は、食と 健康コース、フードコーディネートコースとし1学科2コー スとしました。現代食文化学科フードコーディネートコース は、食の生産から消費までのながれを理解し、食の安心・安 全や栄養を保障しながらも、新たな食文化創造を目指した総 合的なプロデュースに視点をおいた人材を育てることを目標 とし、食と健康コースは栄養士免許取得の保証として栄養士 実力認定試験を受け、その上に家庭科教諭、栄養教諭免許、 その他の資格を取得できる課程としました。栄養学科は本大 学で唯一国家試験を受験する管理栄養士養成課程です。国家 試験は平成14年の管理栄養士養成課程における大幅なカリキ ュラム改定から7回目を迎え、国家試験としては第26回目と なります。本学科では新制度になって初回(第20回国家試 験)から合格者数について実績をあげてきましたが、本年3 月に行われた第26回管理栄養士国家試験において96.8%の合 格率でありました。第20回からの累積合格者数は442名、中 国地区最多の管理栄養士輩出の養成施設となりました。本学 部の学生は、いわゆる受験戦争を勝ち抜いてきた学生は少な く、素直でまじめではあるが積極性に欠けるというような評 価もあります。それらの学生に対して、1年次から順次構築 されたカリキュラムに基づいて着実に力をつけ、4年次から

本格的に国家試験に向けて合格を目指す体制ができました。 4年生4月の学内模擬試験の時点では平均得点率が40.3%、 最多得点ゾーン30%台だったものが、3月の時点では得点伸 び率が30%から40%上乗せとなり全員合格圏内(得点率60 %) に入ることができました。国家試験に合格するというこ とは手品使いのように合格の切り札があるのではなく、どん な問題が出題されても着実に自らの力で解答できる能力をつ けさせる以外にはありません。何か秘策があるとしたら、学 生個々人に適した方法で、管理栄養士になりたいという念願 を持たせ、学びたい気持ちに火をつけ、わかる喜びを感じさ せ、自らの力に自信と誇りをつけさせることのできる教育者 と学習者の力量(信頼関係も含む)ではないかと思います。 国家試験までの道のりはまさに「大才が怠けるよりも小才が 努力するほうが勝つ | のたとえどおりに、日々休まず、あせ らず、あきらめずの気持ちを大切にして目標に突き進む学生 の気持ちに寄り添うことであります。平成14年から管理栄養 士課程が発足して本年で11年目を迎えました。教育は木を植 えることに似ています。今ある物を分かち与える(教える)、 受け手が肥料を受けながら、苗木が自ら力を伸ばし(育つ) 木が茂り森を作るように、くらしき作陽大学の学生(卒業 生)の活躍が人々の幸福につながること、これこそが教育者 の至福であり、創立者の願いでもあると信じます。栄養学科 はゴールへつながる目標が明確であるために評価が厳しい面 や重圧もありますが、達成できた喜びも明確です。一方、現 代食文化学科はどうしてもその陰に隠れてしまう傾向もあり ますが、本学科は学生が学びたい進路に自由に触角を伸ばし、 4年間に就業力をつけ社会で活躍できる選択の幅も広い利点 があります。私たち教員はどの学生も公平に未来を担う力を 持っているという希望を持って教育にあたらせていただきた いと思っています。私は、本大学の学生と熱意のある教員に 感謝の念に耐えません。わが学部の教育力の高さを誇りに思 います。また本年も更なる発展を願って、未来へ向かって活 き活きと生きる力のある人材を世に送り出したいと思ってい ます。

第26回 管理栄養土国家試験結果











子ども教育学部の新たな第二ステージの始まり



子ども教育学部長***。 いきつのり 山野井敦徳

思い起こせば、子ども教育学部の準備室時代からはや5年が経過し、6年目を迎えます。新学部は〔良寛和尚と童〕の地、玉島に作陽短期大学幼児教育(保育)学科の伝統を引き継ぎながら、不易なる大乗仏教の精神を法灯高く掲げての発足でした。それ以来、教職員一同、〔すべての道はローマ(出口)に通じる〕の思いで、4年の歳月を経て平成24年3月に待望の完成を迎えることとなりました。作陽学園や同窓会の皆様のご期待を一身に受けながらの出立であったように思います。

一期生の就職状況を眺めてみますと、ご卒業された先輩方や教職員のご協力もあって、お陰様で順調に発展してきております。たとえば、就職率は98%に達し、発足時のスローガンであった100%の数値目標をほぼ実現しました。これも一重に作陽学園の関係者の賜と深く感謝申し上げます。

内訳を述べますと、小学校教員には常勤教諭6名、非常勤講師3名、計9名。小学校希望していた学生の100%が夢を現実のものにしてくれました。また子ども教育学部では保育士や幼稚園教諭の免許取得者が最大グループですが、希望者34名全員が内定しました。公立の保育園や幼稚園には15名、

同じく私立には19名が就職しました。さらに民間企業には16 名で、就職希望者全体60名のうち59名が決まりました。

また、子ども教育学部の総定員(入学定員320名・編入学 定員40名) 計360名ですが、平成24年度現在、入試(編入学 を含む) では各学年の入学時で357名 (99.2%) を確保しま した。これらの入学者の質的向上と4年間をかけて1人の落 ちこぼれもなく立派な社会人を養成するか重要な課題になり ます。そのためには、学部のこれまで目指してきた基本方針 をさらに徹底し、向上させる必要があります。具体的には、 建学の精神をベースに人間性涵養を重視する子ども教育学 部、現場や地域ネットワークづくりに貢献する子ども教育学 部、音楽(食育)に強い子ども教育学部など、を着実に具現 化したいと思っております。さらに地域社会への貢献も数多 く実施されるようになりました。昨年は、長年の念願であっ た〔真宗保育学会第18回大会〕が開催され、関係者から過去 最高の大会であったと評価されました。松田藤子先生がご生 存であったならばもっとも望んでおられた学会大会であった と関係者からお伺いしております。今後の本学における幼児 教育のあり方に深く係わる事業でした。

あれやこれやで、新学部も一応の完成期を迎えましたが、子ども教育学部を本学園の目標でもある〔西日本一の学園づくり〕を目指すためには、さらに高いレベルの課題をクリアしなければなりません。子ども教育学部完成期後の新たな第二ステージに備えて学部の改革を考えております。平成25年度から子ども教育学部子ども教育学科は新1年生の定員を従来の80名から110名〔3年次編入定員7名〕への増員。総定員は450名を超えます。学科構成も2コース制で、〔小学校・特別支援学校コース〕定員30名と〔保育園・幼稚園コース〕定員80名を予定しております。現在、魅力ある新学部づくりの対応に追われておりますが、同窓会の皆様や教職員のご声援をお願い申し上げながら、ご挨拶に代えさせていただきます。

平成 23 年度 子ども教育学部 4年生 進路決定状況

大 分 類	志望者	内定者	率
小 学 校(注1)	9	9	100%
保 · 幼 · 施 等	34	34	100%
一 般 企 業	17	16	94%
計	60	59	98%

注1:内定者9名のうち非常勤講師3名を含む。

保·Ś	幼・施等の)内訳	公立	私立	計
保	育	遠	8	10	18
幼	稚	家	4	9	13
介護	・福祉・	施設	3	0	3
	計		15	19	34

新たな領域の拡大により、 さらなる地域音楽文化への貢献を目指す大学院研究科



大学院 音楽研究科長

今年度、大学院音楽研究科長を拝命いたしました竹内でご ざいます。微力ではございますが、本科発展のために尽くし て参る所存でございますので、どうぞご指導ご鞭撻をたまわ りますよう、お願いを申し上げます。

さて、平成22年4月に開設されました大学院音楽研究科に おきまして、今年2月、学位審査を兼ねた修了演奏会が行な われ、第1期生を無事に送り出すことができました。リサイ

タルに相当する70~80分に及ぶ演奏の間、途切れることなく 聴衆を魅了し続け、ソロリサイタルが初めてとは信じ難い、 見事な出来栄えの演奏が次々と披露され、ご来場の音楽愛好 家の皆様からも多くのお褒めの言葉をいただきました。そし て学位審査の結果、9名の修士号を持つ若き音楽家が誕生し ました。

平成24年4月18日~19日に開催された洗足現代音楽作曲コ ンクールのオーケストラ部門で第2位に輝いた張耀熠氏をは じめ、大きな可能性を秘めた修了生の今後に期待し、私ども も、応援し続けたいと考えております。

来年度より、今までの器楽・声楽・作曲領域を『演奏芸術 領域』として括り、さらに、『教育文化領域』『音楽文化領域』 を新設いたします。これは、音楽学部音楽学科に、『演奏芸 術コース』と『教育文化コース』が誕生することに合わせた 領域の再編であると同時に、地域の音楽文化振興に貢献する 音楽家の育成を目指す本大学院音楽研究科の取り組みのさら なる充実を図るものであります。

前期の催しと致しましては、8月2日(木)14:00より、3号 館聖徳殿におきまして、大学院生有志によります『大学院サ マーコンサート』を開催いたしますので、お誘いあわせの上、 ぜひご来場たまわりますよう、お願い申し上げます。

短期大学60周年を終えて新たな旅立ち





昨年、短期大学創立60周年を記念して開催された「短大週 間」も無事終了し、期間中は多くのお客様にご来学いただき

「初心者のための作曲講座 | 講師: 矢内直行教授

矢内 直行 教授

自分で作曲してみよう、と思われる方ならどなたでも歓迎で す。楽譜が苦手な方、和音などの知識がなくても、思いつい たメロディを歌える方、カラオケなら得意という方なら大丈夫。 歌曲を作りたい場合は詩を、器楽曲の場合は始まりの動機 (2小節程度の旋律)を用意してご参加ください。講座ではメ ロディの発展のさせかた、まとめ方、和音の付け方などを説 明し、あなたのオリジナル曲の完成までお手伝いいたします。

♪開護日 第1回 8月 4日 (土) 10:00~12:00 第2回 8月26日 (日) 10:00~12:00

▶受講料 2,000円 (どちらか1回のみの場合は、1,000円)

ました。お越しになられた皆様には、短期大学の在り方や様 子について詳しく知っていただけたのではないかと思います。 特に、1月22日(日)に本学食堂で行われました「短期大学60周 年記念パーティー」には卒業生や教職員を含め、約200名の方 々にご参加いただき、誠に有難うございました。当日は食文 化学部のお力添えもあり、とても素晴らしいパーティーを催 すことができ、関係者の皆様には大変感謝を致しております。

短期大学が60周年を迎えられたのは、大勢の卒業生の方々 をはじめ、これまで支えてくださった保護者や教職員の皆様 のおかげです。この場をおかりして深く御礼申し上げます。 全国的に短期大学数は減少傾向にありますが、教職員一同こ の厳しい状況下においても、精一杯努力してまいりますので、 皆様方におかれましては、今後ともより一層のご理解、ご協 力をお願い申し上げます。

さて、短期大学では今年も夏期に社会人向けの公開講座を 開講致します。内容にご興味のある方は是非ご参加いただき、 お役に立てていただきたいと思っております。

ピアノ講座「バイエルをもう一度・・!」講師: 重利和徳 助教



重利 和徳 助教

昔ピアノを習った時に弾いていたバイエル、それ以来ピアノ に触れていない方も、時々ピアノを弾いている方も、原点に 帰って、もう一度バイエルを弾いてみませんか?数曲でも、 数小節でも、あやふやでもOKです。バイエルであれば、以 前弾いているものでも、新たに挑戦するものでも構いません。 小さい手だった子どもの時の弾き方と、現在の大人になった 時の弾き方は、ずいぶん変化しています。今の体に合った 弾き方でバイエルをきっかけにして、新たにピアノの世界に 触れてみてはいかがでしょうか。 ※当日はバイエルの楽譜を持参してください。(どの出版社でも可)

▶開講日 第1回 8月 4日 (土) 10:00~12:00 第2回 8月26日 (日) 10:00~12:00

▶受講料 2,000円 (どちらか1回のみの場合は、1,000円)

公開講座についてのお問い合わせは大学事務局まで Tel: 086-523-0822 (企画演奏担当) Mail sakuyokikaku@ksu.ac.jp Revolution [改革] & Development [発展] 岡山県作陽高等学校

★全国に通用する教育内容と作陽教育カリキュラムで、幅広い目標達成・進路保障100%を具現化する、"智慧の教育"実践校★

校長

第11代校長就任あいさつ

校長 松野 英雄



本年4月に岡山県作陽高等学校第11代校長に就任しました松野英雄です。岡山県立総社南高校校長を最後に、教員生活38年を無事完走し、新たな人生を歩み始めたところでしたが、ご縁をいただき、43年ぶりに故郷・津山に帰ってきました。微力ではありますが、作陽高校の更なる発展を目指して誠心誠意努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。さて、作陽高校といえば「スポーツの力」が思い浮かびます。昨年度は、全国高校総体での男子・柔道部の準優勝をはじめ、正月の全国高校選手権へ男子サッカー部の7年連続出場、女子サッカー部の3年連続3回目となる全国選手権への出場、ゴルフ部の山口国体での少年男子の部優勝など全国レベルで活躍し、「作陽ここにあり」と気を吐いてくれました。また、伝統の「音楽の力」も素晴らしいものがあり、吹奏楽部は一昨年まで、全日本吹奏楽コンクール岡山県大会で8年連続金賞という快挙を成し遂げております。その他にも、昨年の春季県大会で初優勝した野球部は、県北初となる甲子園出場を狙えるだけの実力を付けつつあります。一方、「進学と就職の力」では、鳥取大学・医学部、岡山大学3名(理・工・教)など国公立大学に14名の合格者を輩出するなど、3年連続で進学・就職ともに100%進路が決定しています。「念願は人格を決定す 継続は力なり」の校訓のもとに、今以上の実績を上げるべく、「人間力の育成に力を入れて、学生一人ひとりの夢を叶える教育」に取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

参事

作陽の価値

参事 山下 亨



作陽高校の校門をくぐって本館に入ると、掲示文「今月の訓言」が目にとまる。旭日中綬章の栄誉に輝 く松田英毅理事長のお言葉(教えの父)であり、読むと心が整理され月初の計(メルクマール)となる。 生徒も教職員も美徳・礼節・忍耐・実践等を喚起する。因みに、松田理事長は硬式野球部員に毎朝の校内 トイレ掃除を助言されたが、私も理事長からは一人慎む心(慎獨)を訓育されている。本校は文武両道と 全人教育の学校である。柔道部・サッカー部・ゴルフ部は全国レベルの強豪校となり野球部も毎年甲子園 を狙う位置にあるほか、作陽音楽は市民の誇りである。一方、学業面では「基礎学力の作陽」「英語の作 陽」も定着し多くの生徒が国公立大学や有名私大に進学している。いずれも、熱い志の生徒たちに向き合 い力いっぱい応える熱血漢の教師たちがいて「師弟の絆」は作陽の宝である。国家社会有為の人材育成を 目指す作陽。創立者松田藤子先生は「教えの母」であり、当時生徒と藤子先生の距離は近かった。藤子先 生から直に講義されたお話は血肉となり骨髄に蓄積されていた。先生の信条とされた教えが校訓「念願は 人格を決定す 継続は力なり」である。現在は「報恩の日」(総合教育)に全校生徒に松田理事長が講義 されている。卒業すると「自分は作陽卒業生」というカード一枚で生きていくから、校訓も理事長の教え も心のエネルギーとなる。これは社員として経営者として最もよく効く。ともあれ、平成24年度は作陽学 園創立83年目。伝統校・作陽の理事長例月訓言と校訓と校歌は他校が真似できない絶対価値である。グロ ーバル社会は変転し全てのハードは老朽化する。が、作陽教育は数々の価値を生み出す。意識改革という 名のメンテナンスを継続して作陽教育の価値をますます高めてまいりたい。

副校長

「文武両道」への確立を目指して 副校長 塩浦 六丸



創立以来一貫して人間形成に力を注ぎ、利他中心の立場をとる大乗仏教の教義に基づく聖賢の教えをよりどころにして、宗教的情操教育を行っている。創立83年目を迎え、「進学実績」・「就職実績」・「部活動実績」が確実に向上しております。「進学実績」では、鳥取大学医学部をはじめ国公立大学2ケタ合格。「就職実績」では、岡山県警察官合格をはじめそれぞれの企業へと全員希望の進路保障を実現いたしました。「部活動実績」では、昨年度全国高校総体(秋田インターハイ)において柔道部が準優勝を果たし、津山市スポーツ栄誉賞をはじめ、サッカー部が7年連続全国大会に出場。ゴルフ部は、国体優勝(少年男子の部)、中国大会アベック優勝。硬式野球部、バスケットボール部、吹奏楽部など強化指定部を中心に続々と実績をあげております。このように、作陽学園の一員である高等学校が未来永劫発展していくためには全教職員が、教育内容にこだわり、鋭意研鑚を積み、日々精進して、生徒一人ひとりと真剣に向き合うことこそが、現実的に求められている姿であると確信致します。そして、今以上に地域・市民の皆様方に信頼され、愛される作陽高校作りを目指す決意であります。

主幹教諭

主幹教諭として

主幹教諭 神田 寿則



本年度より、主幹教諭兼教務部長をさせていただくこととなりました。作陽高校始まって以来の事でもあり、どのような仕事をどのようにすればいいのか手探り状態ですが、作陽高校のため精一杯努力する所存です。幸い本校は目的を持った生徒と、熱意のある優秀な先生方に恵まれています。勉強や技術のみならず、人としてどのような人生を送ればよいのか、本当の幸せとは何か、また、卒業後社会に貢献できる生徒の育成めざし、学校全体として取り組んでいます。生徒のみなさんが作陽に来てよかったと思えるように教職員はもちろんの事、保護者のみなさんのご協力をいただき、人作りの作陽として頑張って行く所存です。より良き学校をめざし誠心誠意頑張りますので、今後より一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

1 学年の運営方針」

1学年主任 戸田 陽一



4月8日、男子143名、女子96名の239名が作陽高校に希望を抱いて入学した。入学 して約1カ月が経過し、宿泊研修、初めての中間考査の学校行事をこなし、欠席者も 殆んどなく落ち着いた雰囲気でスタートが切れている。宿泊研修では、1泊2日の日 程で野外炊事、オリエンテーリングなどを行い、クラスの親睦を深めた。 おいては基礎学力向上を目指して様々な取り組みをしている。また、部活動にも多数 の生徒が入部し熱心に活動している。教育実践目標の1つであるである挨拶を、他人 に心を開く第一歩として笑顔で気持ちよく行えるように取り組んでいる。

学校生活が充実し、豊かな人間性が身につくように1年団教員一同努力していきた いと考えています。

2年生

2学年の運営方針」

松本 2 学年主任 賢治



今年度2学年は177名でスタートしました。欠席等も少なく、ほとんどの生徒が自 分のやりたいことを見つけ学校生活を楽しんでいるように思えます。2学年のスロー ガンとしては、豊かな人間形成を目指して実践目標である「挨拶」、「掃除」、「合掌」 の徹底を図り、当たり前の事に感謝の心を持ち、奉仕の精神で人の為に何かできる生 徒になってほしいと思います。また、来年度の進路実現に向けて、日々の授業を大切 にし、課題等にまじめに取り組む姿勢を身に付かせて学力向上を図るとともに、様々 な資格、検定等にも積極的に取り組ませたいと考えています。中だるみの1年ではな く、来年の為の基礎固めをし、飛躍の1年になるように学年一丸となって取り組んで いきます。

3年生

「3学年の運営方針」

3学年主任 杉本 哲也



高校生活も最終学年となりました。さまざまな思いをもって入学してきた生徒たち も進路決定という人生にとって大きな選択をしなければならない時期となりました。 将来について漠然としている生徒もたくさん見受けられます。私たち3学年教員は、 生徒一人一人がなりたい自分、こうありたい自分づくりに一丸となって支援していき たいと考えています。そのためには、しっかりとした学力を身につけさせることが大 切です。学力とは、入試に必要とする知識だけではなく、社会に巣立っていく生徒た ちが社会人として必要な教養や礼儀、礼節を重んじ、他人を思いやる心も身につけて もらいたいと考えています。これから1年間、進路決定に向けて生徒たちは一喜一憂 することと思いますが、私たち教員が生徒の思いを受け止め、夢を実現するためにと ことん寄り添い、粘り強く指導していきたいと考えています。

作陽高校生の成果をご紹介します

おもいっきり学べる教育環境 おもいっきり活躍できる部活動 おもいっきり応援できる一体感

2年連続進路保障100%を達成

一平成24年3月卒業生の実績一

【国公立 14名合格】

鳥取大(医)・岡山大(教、理、工)・大阪教育大(教) 岡山県立大・香川大(教)・高知大(教) 他 合格

【私立 162名合格】

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学 名合格 関西圏:立命館大·関西学院大·関西大 他多数

関東圏:明治大・青山学院大・明治学院大・日本大 専修大・東洋大・駒沢大 他多数

【専門学校 32名全員合格】

旭川厚生専門学院、岡山赤十字看護専門学校、神戸 医療福祉専門学校 他

【就職內定 32名全員合格】

岡山県警、両備ホールディングス㈱、社会福祉法人 みのり学園 他

県大会・全国大会で活躍する部活動多数

【柔 道

部】岡山県勢初 全国大会準優勝 津山市スポーツ栄誉賞受賞

【サッカー部男子】 【サッカー部女子】

7年連続20回目全国大会出場 3年連続3回目全国大会出場 【ゴ ル フ 部】岡山県勢初 山口国体少年男子の部優勝

中国大会団体男女優勝 【硬式野球部】春季岡山県大会優勝

第93回全国選手権岡山県大会第3位 【バスケットボール男子】 4年連続美作地区総体優勝

春季岡山県大会ベスト8

【吹奏楽部】全日本吹奏楽コンクール

岡山県大会8年連続金賞受賞

【その他部活動】バスケットボール部女子/ソフトテニス部/ 硬式テニス部/バドミントン部/バレーボール部/剣道部/ 卓球部/チアリーダー同好会/ダンス同好会/演劇部/書道 部/放送部/美術部/生物部/調理部/茶道部/ボランティ ア部/囲碁・将棋部/軽音楽部/アンサンブル部/ESS同好会

活動 実績

新任教員のご紹介(大学・短期大学)



苦曲一成 専任教授

20年ぶりに作陽に帰参。仲間と 「笑顔を増やすぞーい!」。これ が新たな「念願」です。



食文化学部

桐野顕子

今年度は、栄養指導実習、栄養 教育論実習を担当します。どう ぞ宜しくお願いいたします。



子ども教育学部 専任准教授 能登谷芳美

はじめまして、私は長年の保育 経験で得たことを、少しでも多 くお伝えしたいと思います。



子ども教育学部 専任准教授 川村高弘

先生を目指す学生の確かな実践 力育成と大学生活充実のため、 愛情を込めてサポートします。



音楽学部

音楽学部

悠子 専任教授 森

新任のヴァイオリニスト森悠子 です。バロック的な要素を取り 入れた演奏を目指しましょう。

専任准教授 羽山弘子

夢に向かって皆さんと一緒に努

力できる幸せを感じています。

微力ですが精一杯頑張ります!



食文化学部

食文化学部

専任助教

専任助教 石坂朱里

食に関る仕事の魅力や可能性を

見つけられるような手助けをし

ていきたいと思います。

食文化学部の実験・実習などの 補助をさせていただきます。よ ろしくお願い申し上げます。



_____ 子ども教育学部_{は 5}

専任講師 原子 純

私の専門は、幼児教育学です。 「子どもから学ぶ」をモットー に研究に取り組んでいます。



音楽学部

専任准教授 菅付章宏

今年度から専任として勤務にな りました菅付です。よろしくお 願い申し上げます。



食文化学部

神崎圭太 専任助教

主に実験・実習を担当します。 実践によって講義で得た知識の 理解が深まるよう頑張ります。



子ども教育学部

吉岡由佳 専任助教

教育・研究両面で「継続は力な り」を実践していきたいと思い ます。よろしくお願いします。



食文化学部

専任准教授 渡邉和子

40年間臨床の場での経験と研鑽 で得た知識を伝え、実践に則し た管理栄養士を育成したい。



子ども教育学部

宮里智恵 教 授

家庭科指導法と食育を担当して いる宮里です。学生の皆さんと -緒に頑張ります。



子ども教育学部

専任助教 田村周一

高等教育研究センターを担当し ます。専門は社会学です。よろ しくお願いいたします。



専任准教授 向後千里

新たな"食"に真摯に向き合い、 真に潤いのある食生活の研究と 表現、教育に励みたい。



子ども教育学部

久山孝美 専任教授

未来を担う子どもたちのため に、小学校教諭を目指す人を応 援したいと思います。



短大音楽学科 居川寛子 専任講師

高校・大学と学んだ母校で勤務 できる事に感謝し、邁進してま いりたいと思います。



食文化学部

松浦加寿子 専仟謹師

常に向上心を持ち、学生と共に 成長していきたいです。御指導 の程宜しくお願い致します。



子ども教育学部。

芝崎良典 准教授

子どもたちの未来がよいものと なるよう、学生に心理学の考え 方、役立て方を教えていきます。



短大音楽学科

重 利 和 徳 専仟肋教

新たな挑戦の始まりですが、楽 しみつつ頑張りたいと思いま す。よろしくお願いします。





山田洋子 常勤講師

"国語は声に出して覚えること" が私の持論。5人娘(笑)とし て、みんなで頑張ります。



国語

篠埜温子 常勤講師

"石の上にも三年"ただ座るで はなく、充実した三年になるよ うな言葉かけをしていきます。



数学

江原早紀 常勤講師

"作陽生のためなら全力でサポ ートします"常に生徒とともに 成長する先生を目指します。

菅野 千尋

田中 晴香

松尾早耶香



保健体育

池田浩子

'苦しみなくして成果なし"学 校で何を学びたいか考えられる 生徒を育てたいと思います。



家庭

高橋由佳■數学

"好きこそ物の上手なれ"楽し みにしてもらえるような家庭科 ■数学 の授業を心掛けます。



■保健体育

国国語

- 夏希 ■保健体育 大屋
 - 神田慎太郎 ■音楽
- 山下 景子 ■国語
 - 長瀬由美子

よろしくお願いいたします。

退職・退任された教員のご紹介(大学・高校)

大学	音楽学部	兎束	俊之	大学	子ども教育学部	仲宗村	艮幸子	高校	保健体育	藤本	佳枝	高校	数学	織田栄	太郎
	音楽学部	岡田	敬二		子ども教育学部	清水真	[里子		国語	齋藤	弘子		保健体育	須佐	亮介
	音楽学部	田中	誠		子ども教育学部	西山	修		社会	佐藤	貴博		英語	森上	雄
	音楽学部	渡邊	史	短大	短大音楽学科	柿﨑	次子		国語	前島	一公		音楽	関	暢子
	食文化学部	川田	順	高校	校長	赤堀	元美		家庭	嘉陽	沙紀				
	食文化学部	寺西	雅子		副校長兼教頭	中山	勇		国語	澁谷	美樹				
	子ども教育学部	中村哥	喜久江		事務長	筒塩	伸二		数学	上杉	富郎				



学生募集の現状

アドミッションセンター・入試広報室

1 はじめに

平成24年度の入試も終わり、満開の桜から新緑へと変わったキャンパスの中で新入生が楽しそうに談笑する姿が見られる頃になると、新たな年度の学生募集が開始される。昨年度の入試を振り返りながら、本年度の募集について述べてみたい。

ここ数年、長引く経済不況の影響から、家計の教育への支出を抑える傾向は年々強まっている。国公私立を問わず自宅から通学圏にある大学への進学を希望する地元志向や医療系、教育系人気に見られる資格志向が顕著であるだけでなく、受験大学を絞り込むピンポイント出願の傾向も見られた。さらには、大学卒の就職率の低さから大学を敬遠して短大や専門学校での資格取得を目指す受験生も増加傾向にある。本学の三学部と短大音楽学科においても、それぞれこの傾向が顕れた24年度入試であった。

2 音楽学部・短大音楽学科

全国的に経済的要因や志向の変化及び就職困難状況から音楽系への進学を躊躇う傾向が一層強まっていく中、本学の音楽学部・短大の入学者は前年度を僅かながら下回ったもののよく健闘したと言えるであろう。これは各種イベントでの地道な取組みに加えて、教育内容の充実に日夜精励された先生方の努力に負うところが大きかったのは言うまでもない。また、3年目を迎えた大学院においては、入学者が前年度よりも大幅に増えたのは大きな成果であった。

昨年度の入試から今後の募集活動で取り組まなければなら ないいくつかの課題も顕著になっている。昨年度から入試制 度の大幅な変更、学科間での専修の組替え、音楽教育学科の 学納金の減額及び就業力育成支援事業の取組みなどの様々な 改革を行った。しかし、これらの取組みには一定の効果は 見られたものの、受験生を増加させるまでには至らなかっ た。一方では、受験講習会やオープンキャンパスなどのイベ ントへの参加者は増加しており、今後に一筋の光明を見出す ことが出来た。平成25年度には音楽学部は二学科から一学科 に、定員も130名から100名へと大きな転機を迎える。伝統と 実績を誇る「作陽音楽」のリニューアルした魅力や就職に強 い「作陽音楽」の実践をステークホルダーに発信するために は、事務局や担当参与の根気強い広報・募集活動はもとより、 先生方やレッスナー及び同窓会のネットワークを通じての足 を使っての募集活動が是非とも必要である。今こそ学園が一 丸となって取り組まなければならないときである。

3 食文化学部

食文化学部全体の志願者は昨年度とほぼ同数であったが、 入学者は前年度比11ポイントの増加であり、学部定員を14ポイント上回った。学科別に見ると、栄養学科は管理栄養士国 家試験の高い合格率や資格志向を受けてほぼ前年並みといえ る志願者であったが、入学者は想定外に多く前年度比17ポイントの増加となった。前半入試での入学者の絞込みと後半入試での入学者の確保が大きな目標であったが、ほぼ目標は達成できた。現代食文化学科の「食と健康コース」は栄養士や食に関する資格志向から志願者は前年度比20ポイントの増加であり、入学者も前年度を上回った。定員は満たしているものの、定員充足型の入試から脱却できていないのが現状であり、今後の課題である。「フードコーディネートコース」は志願者、入学者とも前年度並みであったが、定員充足には至っていない。身近な栄養士の資格が取れないことに加えて、このコースの魅力が十分発信できていないことが大きな原因であると思われる。高校や受験生に魅力を如何に発信していくかが大きな課題である。

4 子ども教育学部

志願者は前半の入試ではAOの変更や指定校の削減による受験者の減少が見られたものの、推薦では前年度を上回っており、志願動向はほぼ前年度並みであった。しかし、後半の一般入試やセンター利用入試では出願数は減少した。これは前年度の高倍率から滑り止めとしての出願が減少したこと、受験生の地元志向や安全志向から受験校を絞り込んでのピンポイントの受験が増加したことなどが要因として考えられる。入学者に関しては、前年度の反省から前半に偏らないバランスの取れた入学者の確保を目標にしていたが、ほぼ目標通りに入学者の確保が出来た。昨年度の入試からいくつかの反省点も見られたが、本年度の募集に関しては、平成25年度からの学科改組による2コースの定員充足に向けた新たな募集戦略を立てなければならない。本学の子ども教育ならではの2コースの特色をいかに発信して、学生募集につなげていくかが大きな課題である。

5 終わりに

来年度から予定されている二学部の学科改組に伴う学部定員の変更に対処して、全学部の定員を充足させることが本年度の学生募集の最大の目標である。そのためにはこの大きな改革の意義を理解し、しっかりとした教育・研究の実践と数字に表れる出口の実績を担保しなければならない。学生募集とは大学への信頼をステークホルダーの中に醸成するものであることを肝に銘じたいものである。

同窓生の皆様へ入学優遇制度のご案内

平成21年4月より、同窓生のお子様が本学に入学する場合、次のような優遇制度が設けられました。

入学優遇制度

本大学・短大の卒業生のお子様が本学に入学した場合、 入学後、入学金相当額を給付いたします。

(音楽学部: 350,000円[教育文化コース: 250,000円] 食文化 学部・子ども教育学部: 250,000円 短期大学: 300,000円)

個声会论以

鶴声会近況報告

鶴声会会長 井端 豊実



平成24年3月にくらしき作陽大 学で行われた卒業式で子ども教育 学部の卒業生が輩出され、我々鶴 声会会員に仲間入りしました。音 楽学部、食文化学部、子ども教育 学部と3学部の卒業生が集う鶴声 会となります。各地域におかれま しても子ども教育学部の卒業生を よろしくお願いいたします。 大変好評をいただいています、会報誌鶴の声Vol.4が間もなく完成いたします。今回も趣向を凝らした内容で、音楽学部の一期生から今年度卒業された方まで興味を持ってお読みいただける内容になっています。

9月22日出には鶴声会総会をくらしき作陽大学にて開催いたします。 今回の総会では演奏会や講演なども企画しています。詳細は7月に会報誌と鶴声会総会のご案内をいたしますので、ご確認をお願いします。

翠会だより

翠会会長 石原 昌子



「短期大学創立60周年」を祝う記念パーティーが、去る1月22日くらしき作陽大学7号館に於いて開催され、多くの来賓の方や卒業生、大学関係者ら約180人の出席のもと、食文化学部の教職員、学生の皆さんが料理やサービスをコーディネートしてくださり、作陽らしいとても温かい祝賀会となり

ました。

現在、短期大学は音楽学科のみとなっていますが、今まで には家政学科、幼児教育学科、音楽学科、情報処理学科の各 学科から約12,000名の学生が本学を巣立ち、それぞれ社会で 活躍しています。

翠会では、同窓会が元気でなければ大学の発展には繋がらないとの強い思いで、今後もさらに大学同窓会鶴声会、学園との連携も図りながら、同窓生の交流の場としての活動、また、後輩たちへの支援を進めていきたいと考えております。 隔年開催の総会・懇親会も盛会に行われており、卒業生相互のネットワークの広さと強さをあらためて感じております。 最後になりましたが、卒業生の皆様には、今後とも引き続き 翠会へのご協力とご支援をお願い申し上げます。

翠会では、同期会開催に係る通信費の助成を行っています ので開催の予定がありましたら、事務局までご連絡ください。

作陽高校同窓会だより

作陽高校同窓会(会長 玉置俊作)は、同窓会員約2万4 千人を擁し、同窓生は経済界、学界、官界、芸能界、スポーツ界等で活躍しております。最近では、平成22年11月に創立80周年記念として10年ぶりに「同窓会名簿」(写真)を発行して会員相互の交流に寄与しているところです。

同窓会の年間事業は、年4回の本部役員会のほか教育実習生激励会(6月)、桃山会(6月、11月)、総会・懇親会(8月)、同窓会入会式(2月の卒業式予行日)を開催するほか、全国大会に出場するクラブの壮行会で激励金を贈呈しております。一方、関西支部(支部長下谷義友)や関東支部(同石堂良



男)では年1回の支部総会・懇親会を盛大に開催しております。ちなみに、関東支部では、全国大会に出場するサッカー部や柔道部の応援にも全力を挙げております。

さて、例年8月16日に開催している総会・懇親会ですが、本年度は、開催日を8月16日から8月11日(出)に変更して、津山国際ホテル(☎0868-23-1111)にて11時から開催いたします。学園から松田英毅理事長、高校から松野英雄校長などのほか大勢の先生方の出席をいただくこととなっております。今回の当番幹事は平成3年卒業生が務めており、高山尚明氏が幹事長としてとりまとめに当たっております(詳細は高校の同窓会本部 ☎0868-23-2188にご照会ください)。年一回の総会は卒業生の「絆」を再確認するひとときです。ご出席を心からお待ちしております。また、母校見学を兼ねて9月の清陵祭(文化祭・体育祭)にもご来校くださいますようご案内申し上げます。

平成23年度決算について

平成23年度決算の概要は以下のとおりです。この決算は、5月22日に 行なわれた理事会・評議員会の承認を受けたものです。

資金収支計算

学生生徒等納付金収入は、入学金を含む授

資産売却収入は、固定資産等の売却による 県にガルサスハは、回た貝庄寺の元却による 収入をいい、不動産、有価証券などの売却 による収入が代表的なものとしてあげられ ます。

雑収入には学納金から事業収入までの収入 科目に含まれない収入で、かつ帰属収入と なる収入が記載されます。年度によって異 なりますが、退職交付金はその中でも大きなウエイトを占めることがあります。

前受金収入は、翌年度以降の諸活動に対応 する資金を受け入れた場合に生ずる科目で、 一般的には翌年度入学生にかかる学生生徒 等納付金収入などが代表的なものです。

固定資産取得のための引当特定預金から取 り崩した繰入収入の他、貸付金回収収入、 預り金受入収入等、帰属収入の性質をもた

資金収入調整勘定は、期末における未収入 金の計上、また前年度で前受金とした当該 年度に属する学費収入等を学生生徒等納付 金収入として計上するための減算科目です

教育研究経費とは、教育研究に直接摘要 する経費のことをいい、光熱水費をはじ め研究費、奨学費、入学は験にかかる経 費もこの中に含まれます。

管理経費支出は、教育研究活動に間接的 に要する経費で、一般経費のほかに役員 会、法人業務、教職員の福利厚生、学生 募集経費、食堂の経費などが加わります。

ルート といった固定資産取得のための支出です。

設備関係支出とは、教育研究用の機器備 その他の機器備品、図書、車両とい った固定資産取得のための支出です。

前年度中の活動に係る支出のうち、 年度に支払われた前期末未払金支払支出 の他、前払金支払支出などがあります。

資金支出調整勘定とは、当該年度中に支払うべき支出であるが、支払いが次年度になる期末未払金や、前年度に支払いを :当該年度の支出を減算すること により支出額を調整するものです。

	【収入の部】		(単位	江:百万円)
	科 目	予 算	決 算	差 異
/	学生生徒等納付金収入	2,151	2,151	0
	手数料収入	40	32	ω
	寄付金収入	86	103	△17
	補助金収入	500	481	19
	資産運用収入	34	52	△18
1	資産売却収入	300	300	0
	事 業 収 入	70	61	9
	雑 収 入	53	95	△42
1	前 受 金 収 入	444	415	29
>	その他の収入	278	360	△82
1	資金収入調整勘定	△440	△466	26
′	前年度繰越支払資金	2,707	2,707	0
	収入の部合計	6,223	6,291	△68

【支出の部】

(単位:百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費 支 出	1,685	1,709	△24
教育研究経費支出	577	538	39
管理経費支出	252	228	24
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1	12	△11
> 設備関係支出	50	70	△20
資産運用支出	300	401	△101
その他の支出	145	147	△2
[予 備 費]	9	0	9
資金支出調整勘定	△123	△115	△8
次年度繰越支払資金	3,327	3,301	26
支出の部合計	6,223	6,291	△68

≪資金収支の概要≫

収入については寄付金収入、資産運用収入、雑収入、その他の収入等の増加により、予算比 6.800万円増加の合計62億9.100万円となりました。

-方、支出については、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費が合計で予算比3,900万円 の減少となりました。

資産運用支出は施設設備引当特定資産繰入支出等により予算比1億100万円の増加となりまし

収入合計と同様、支出合計は予算比6,800万円の増加となりました。

費収支計算

学生生徒等納付金とは、授業料、	【収入の	部】			(単位	立:百万円)
入学金、教育運営費、実験実習 費等の学費収入です。	科	目		予 算	決 算	差 異
	学生生	徒等納伯	寸金	2,151	2,151	0
手数料は、入学検定料、試験料、証明手数料とセンター試験の実	手	数	料	40	32	8
施手数料が主なものです。	寄	付	金	87	105	△18
寄付金には、資金収入の寄付金 だけではなく、現物寄付金が含 まれます。	補	助	金	500	482	18
	資 産 i	軍 用 収	! 入	33	45	△12
補助金は、国庫補助金、地方公	事業	収	入	70	61	9
共団体補助金が中心です。	雑	収	入	76	121	△45
帰属収入とは、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金な	帰属」	以入 合	計	2,957	2,997	△40
どの負債とならない法人に帰属する収入のことです。	基本金	組入額額	計	△51	△64	13
其本今知】節卜は 学校が勘査	消費収	入の部で	信台	2,906	2,933	△27

基本金組入額とは、学校が教育 研究活動を行なうためには、校 地、校舎、機器備品、図書など の資産を持ち、維持する必要があり、学校会計では、これらの教育研究活動に必要な資産を取 得するために、帰属収入から充 てた金額をもって、維持すべき 資産等の金額とし、これが基本 金組入額と呼ばれているもので

人件費は、教員人件費、職員人 件費、退職給与引当金繰入額な

教育研究経費は、教育研究活動 に必要な消耗品、旅費交通費、 光熱水費などのすべての経費で

管理経費は、教育研究の諸活動 に間接的に必要な消耗品等の経 費です

基本金取崩額は保有する必要が なくなった対象資産の基本金への組入額を除却等により取り崩 す額です。

【支出の部】		(単位	江:百万円)
科 目	予 算	決 算	差異
人 件 費	1,676	1,691	△15
教育研究経費	880	840	40
管 理 経 費	321	286	35
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	1	2	△1
徴収不能引当金繰入額	9	1	8
徴 収 不 能 額	0	0	0
[予 備 費]	9	0	9
消費支出の部合計	2,896	2,820	76
当年度消費収入超過額	10	113	
前年度繰越消費支出超過額	1,570	1,570	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費支出超過額	1,560	1,457	

≪消費収支の概要≫

収入について、学生生徒等納付金、寄付金、補助金、資産運用収入の合計が予算比で1,200万円の増加となっており、帰属収入合計は予算比4,000万円増の29億9,700万円となっています。その結果、消費収入合計は予算比2,700万円増の29億3,300万円となりました。

支出については教研経費4,000万円、管理経費3,500万円の予算比減少となっており、経費節減 の効果が表れているといえます。その結果、消費支出合計は予算比7,600万円減少し28億2,000万 円となりました。

当年度消費収入超過額は予算比で収入増及び支出減となったことにより1億1,300万円となり ました。その結果、翌年度繰越消費支出超過額は14億5,700万円となりました。

【資産の部】			(単位:百万円)
科目	平成23年度末	平成22年度末	増減
固 定 資 産	19,355	19,643	△288
有形固定資産	16,080	16,365	△285
土地	5,731	5,730	1
建物	9,471	9,692	△221
構築物	60	102	△42
教育研究用機器備品	136	160	△24
その他の機器備品	12	19	△7
図書	670	663	7
車輌	0	0	0
その他の固定資産	3,274	3,277	△3
流 動 資 産	3,388	2,984	404
資産の部合計	22,743	22,627	116

≪貸借対照表の概要≫

(資産について) 有形固定資産の減少は建物等の減価償却によるものです。

流動資産の増加は、有価証券等の満期償還による現金預金の増加によるものです。

(負債について) 固定負債の減少は退職給与引当金によるものです

(基本金について) 増加の主因は、建物・教育研究に係る機器備品・図書に係る基本金組入による ものです。

(消費収支差額について)前年度までの支出超過額に今年度の支出超過額1億1,200万円(今年度消 費収支差額)が加わりました。

【貝頂の	り部】					(単位:百万円)	
	科	目		平成23年度末	平成22年度末	増 減	
固	定	負	債	651	689	△38	
流	動	白	倩	519	541	^22	Ī

負債の部合 計 1,170 △61 【基本金の部】 (単位:百万円)

	1	7		=		十成20千皮木	十成乙二十反不	垣	/19%
第	1	号	基	本	金	22,638	22,574		64
第	2	号	基	本	金	0	0		0
第	3	号	基	本	金	167	167		0
第	4	号	基	本	金	225	225		0
基	本	金	の部	合	計	23,030	22,966		64

【消費収支差額の部】			(単位:百万円)
科 目	平成23年度末	平成22年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	1,457	1,570	△113
消費収支差額の部合計	△1,457	△1,570	113

【負債の部、基本金の部、消費	(単位:	百万円)		
科目	平成23年度末	平成22年度末	増	減
負債の部、基本金の部 消費収支差額の部合計	22,743	22,627		116

※ 表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

等のご案内

Kurashiki Sakuyo University Faculty of Music Sakuyo Junior College of Music

July 2012

9日(月)

第20回作陽トロンボーンアンサンブル サマーコンサート ■曲目:Let's Bone's March、鹿男あをによし 他 ■会場:野外音楽堂 ■入場料:無料

10日(火)

平成22・23年度コンクール等入賞者コンサート ■本学学生で平成22・23年度コンクール等入賞者による演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料

17日(火)

オペラ演習前期発表会

■オペラハイライト演奏会 ■曲目:フィガロの結婚、アイーダ、リゴレット、ドン・バスクゥーレ

■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

18日(水)

モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会Ⅲ

■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会 ■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

19日(木) 〈開演〉18:45

室内楽研究発表会 (ピアノデュオ) ■室内楽履修者による演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料

19日(木)

第2回作陽トランペットアンサンブルサマーコンサート

■曲目: アニメメドレー、洋曲ヒットパレード、ガーシュウィンメドレー■会場: 7号館■入場料: 無料

22日(日)

第3回作陽ジュニア・ウインド・アカデミー定期演奏会

■くらしき作陽大学主催 子ども吹奏楽講座「作陽JWA」の発表演奏会 ■曲目: ブロック M、カウボーイソング、子どもの四季、ラ・クカラチャ 他

■ ゲスト: 倉敷市立玉島東中学校吹奏楽部 ■ 会場: 藤花楽堂 ■ 入場料: 300円

23日(月)

室内楽研究発表会(弦楽器)

■曲目:ディヴェルティメント F-Dur KV.138 他■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

24日(火)

2012 ファカルティーコンサートⅡ

重利和徳・居川寛子/ジョイントリサイタル (ピアノ) ■今年度本学に赴任した重利和徳先生・居川寛子先生によるジョイントコンサート

■曲目:バッハ/イタリア協奏曲、リスト/スペイン狂詩曲 他 ■会場:藤花楽堂 ■入場料:一般2,000円・学生1,000円

25日(水)

MILESTONE CONCERT

■室内楽履修生による、ピアノ・アンサンブル演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料:無料

〇月

August 2012

2日(木)

大学院サマーコンサート

〈開演〉14:00

■大学院生によるコンサート ■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

2日(木)

声楽サマーコンサート

〈開演〉18:45

■声楽専修生によるソロコンサート

■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

4日(±)

2012 作陽音楽短期大学 公開講座〈要申込〉

「何心者のための作曲講座」とピアノ講座「バイエルをもう一度」 ※社会人対象。ただし、作曲講座は、高校生以上対象。 ■会場:1号館 ■受講料:1,000円

26日(日)

2012 作陽音楽短期大学 公開講座〈要申込〉

■「初心者のための作曲講座」とピアノ講座「バイエルをもう一度」 ※社会人対象。ただし、作曲講座は、高校生以上対象。 ■会場:1号館 ■受講料:1,000円

29日(水)

第1回作陽サクソフォーンアンサンブル サマーコンサート

■本学サックス専攻生による「サックスを知ろう」をテ

■曲目: 本田俊之/サケソフォンパラダイス、R.クレソス/ CACHE-CACHE 他■会場: 聖徳殿■入場料: 無料

September 2012

17日(月)

作陽ウインドアンサンブル 第23回定期演奏会 ■結成23年目を迎える老舗サークルによる定期演奏会

■会場:藤花楽堂 ■入場料:500円

26日(水)

2012 ファカルティーコンサートⅢ 羽山弘子・藤田卓也・蓮井求道・マルツァガリア/声楽アンサンブル

■連井求道先生、マルツァガリア氏、今年度本学に赴任した羽山弘子先生・ 藤田卓也先生による声楽アンサンブル ■会場:ルネスホール ■入場料:一般2,500円・学生1,500円(当日500円増)

人人月

October 2012

平成24年度特待生コンサート(1年生) 3日(水)

■平成24年度特待生(1年生)による演奏会

10日(水)

平成24年度特待生コンサート(2年生)

■平成24年度特待生(2年生)による演奏会

■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

12日(金)

第44回くらしき作陽大学管弦楽団定期演奏会

■本学の管弦楽団による定期演奏会

17日(水)

平成 24 年度特待生コンサート (3、4 年生) ■平成24 年度特待生 (3、4 年生) による演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料

24日(水)

モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会 IV

■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料

26日(金)

中島尚子ピアノリサイタル(※)

■中島尚子先生によるピアノリサイタル

■曲目: プロコフィエフ/ロミオとジュリエット、バッハ・ブゾーニ/シャコンヌ 他 ■会場: ルネスホール ■入場料: 一般2,000円、学生1,000円

] 月月

November 2012

9日(金)

ミニコンサート&ピアノ公開レッスン ■モスクワ音楽院特別演奏コース、ロシア教員によるミニコンサート&ピアノ公開レッスン

■会場:藤花楽堂 ■入場料:1,000円

10日(土)

EARNEST CONCERT

■ピアノ独奏、連弾、2台ピアノ、管楽器等による多彩な演奏会
■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

11日(日)

EARNEST CONCERT

■ピアノ独奏、連弾、2台ピアノ、管楽器等による多彩な演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料

16日(金)

重利和徳ピアノリサイタル(※)

17日(土)

第11回アカデミア・ウインド・オーケストラ演奏会2012

定期演奏会 倉敷公演

■音楽教育学科の吹奏楽指導専修・音楽教育専修の管・打楽器専攻の学生で構成されているマーチングバンド「Drum&Brass Corps "MUSICA"」と吹奏楽の授業の「Accademia Wind Orchestra」の第11回目の定期演奏会

■会場:藤花楽堂 ■入場料:500円 第29回作陽 Music Gallery

17日(土)

■本学電子音楽専修生による演奏会 ■会場:聖徳殿 ■入場料:500円

18日(日)

第17回フルートフェスティバル

■曲目: ピーターと狼、ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら 他 ■会場:藤花楽堂 ■入場料:500円

モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会 V ■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会 ■会場: 聖徳殿 ■入場料: 無料 21日(水)

23日(金) 〈開演〉19:00

2012 ファカルティーコンサートⅣ

室内楽の夕べ

■今年度本学に赴任した森悠子先生・野村朋亨先生を中心とした室内楽の演奏会
■曲目:ドビュッシー/ヴァイオリンソナタ、チェロソナタ 他
■会場:藤花楽堂 ■入場料:一般2,000円・学生1,000円

27日(火)

デザミド・ミュジック ■作陽音楽短期大学の学生によるソロ並びにアンサンブルの演奏会

■会場:聖徳殿 ■入場料:無料

※は本学園関係者の演奏会であり、本学主催の演奏会ではございません。

都合により日程、出演者等、内容が変更になる場合がございます。 最新情報はお電話又は大学ホームページにてご確認下さい。



《お問い合わせ先》■

http://www.ksu.ac.jp/

メールマガジン配信開始!

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学

演奏芸術センター086-436-0300 FAX.086-436-0283 〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 E-mail sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp

くらしき作陽大学



くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の QRコードで簡単登録! 寅奏会・公開講座等の最新のイベント情報やお得な情報をいち早くお届けします。

SAKUYOメルマガ会員募集中 PCからはこちら! ▶ https://j.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=sakuyokikaku

◎ 気になる施設の見学や体験授業で、大学の雰囲気を知るチャンス

ampus

要予約

// オープンキャンパス // // お申込みはこちら▼ //

11:00~15:00(受付10:30~)

 $8/25_{(\pm)}$

2013 春のオ キャンパス

13:00~16:00(受付12:30~)



JR新倉敷駅北口より無料送迎バスを随時運行します。

要参加費

9/29_[±] $\cdot 30$ _[H] 12/22_[±] $\cdot 23$ _[H]

[対象] 高校生以上(1・2年生も可) [会場] くらしき作陽大学/作陽音楽短期大学

資料請求 お申し込みは



フリーアクセスで申し込む 0120-911-394



Eメールで申し込む nyushi.sakuyo@ksu.ac.jp



平成25年度 岡山県作陽高校 受験相談・入学相談 のご案内

平成25年度

- . 学校案内
- ·生徒募集要項
- ・オープンスクール 参加申し込み
- · 入試情報
- ・授業見学申し込み

随時受付中

作陽高校の タイムリーな情報は ホームページで チェック



で検索 作陽高校

6月23日(土)招待 第1回

岡山県作陽高等学校

第2回 7月29日(日)体験 第3回 10月28日(日)説明

11月23日 (金·祝)準備 第4回

9月9日(日) 清陵祭文化の部







海劇鑑賞"進路をいっしょに考えよう"

で表コース・各系の魅力を説明 ★希望の授業体験・部活動体験 ・新制服ファッションショー ★スペシャルゲストによる教育講演会 ・吹奏楽コンサートと演奏指導 ★入試問題対策講座・面接対策講座 e.t.c

★みなさまのご参加をお待ちしております★

渉外部入試係 〒708-8518 津山市八出1320 tel: 0868-23-2188 fax: 0868-24-7802

Eメール: sakuyo@sakuyo-h.ed.jp HP: http://www.sakuyo-h.ed.jp

学園報に関するお問い合わせは

作陽学園事務局 学園報担当(企画係)

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 tel 086-523-0822 / fax 086-436-0283 Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp